



発行所
財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸 谷 義 雄
定価 1部44円
(購読料は分担金に含む)
題字 井 戸 知 事

九月九日は救急の日

「救急の日」及び「救急医療週間」では、救急業務及び救急医療に対する国民の正しい理解と認識を深め、救急業務のより一層の高度化等を図るため、毎年実施されています。

消防庁では、救急の日及び救急医療週間に合わせ、「救急の日二〇二一」や「救急功労者表彰式」など、様々な催しを実施しているほか、「救急の日」ポスターを作成し、救急についてPRされています。

今年度の「救急の日」ポスターのテーマは、「つながげよう、救命のリレー!!」で、救急車が到着するまでの間に、行方不明の必要事項を伝えるとともに、救命講習の受講を呼びかける内容となっています。また、救急車の適正な利用を促すため、「救急車利用マニュアル」とリンクする内容となっています。

【主な日程一覧】

- 救急の日 九月九日(金)
- 救急医療週間 九月四日(日)～九月九日(金)
- 救急功労者表彰式 九月九日(金)



9月9日は救急の日

心停止状態の人を助けるには、迅速な「救命のリレー」が不可欠です。「助けたい」思いから、救命のリレーによって一命を取り留めた人は少なくありません。あなたも「いざ」というときのために救命講習を受けましょう。あなたの行動で大切な命が救えます。

救命のリレー: 119通報 → 救急隊到着 → AED使用 → 救急車搬送 → 病院での治療

救急車の適正な利用をお願いします。

主催：消防庁、厚生労働省、都道府県、市町村、日本医師会、日本救急医学会、全国消防協会 制作：財団法人救急医療財団

消したはず
決めつけないで
もう一度

台風第一二号による被害

兵庫県

平成二三年台風第一二号の被害に遭われた方に心よりお見舞い申し上げます。

平成二三年台風第一二号による集中豪雨により奈良県・和歌山県を中心に広範囲にわたって浸水や土砂災害などの大きな被害が発生しました。

一時間雨量にして一〇〇ミリを越える猛烈な雨が加古川市でも観測されるなど、兵庫県下においても台風がもたらす大雨によって被害が発生しています。

加古川市消防本部においては、避難要請のあった住民の避難誘導にあたっていた南節男さんが増水した河川に転落し、濁流にのまれ殉職されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

平成二三年台風第一二号による兵庫県下の被害 (平成二三年九月一四日現在)

人的被害	死者 一名
死者	一七名
負傷者	二棟
住家被害	一棟
全壊	一棟
半壊	一棟
床上浸水	一、三三九棟
床下浸水	五、三五一棟
一部損壊	七棟

台風等による風水害発生時における消防職団員の安全管理の徹底について

消防庁

先般の台風第一二号による風水害への対応として、兵庫県加古川市において、救出・救助活動に向かった消防隊員が増水した川に流され行方不明になり、その後死亡が確認される事故が発生したこと、また、和歌山県かつらぎ町においても、救助活動に向かった消防団員が道路に空いた穴への滑落等により、重傷を負う事故が発生したことを受け、消防庁から、安全管理の徹底に関する文書が发出されました。

内容として、平成二二年度末に消防庁より发出された「警防活動時等における安全管理マニュアル(改訂版)」を活用するなど、台風等による風水害発生時における消防職団員の安全管理の徹底を図るよう留意していただきます。

近年風水害による土砂崩れや河川の増水、浸水などが相次いでいます。消防団員・消防職員においては警防活動や人命救助活動等を実施される場合には自身の安全を確保し、二次災害の防止にくれぐれも留意ください。



平成二三年度消防団員安全装備品等助成事業及び消防団員公務災害防止研修事業の実施について

兵庫県消防課

消防団員等公務災害補償等共済基金から平成二三年度においても、消防団員の公務災害防止に取り組み市町を支援するために安全装備品整備等助成事業及び公務災害防止研修事業を実施する旨通知がありました。

各種事業要領については次のとおりです。

- 1 安全装備品整備等助成事業
 - ① 趣旨

消防団員の活動に係る安全装備品の整備、健康診断の実施等を実施する市町に対して助成金を交付する事業
 - ② 助成メニュー

別表に掲げるもの
 - ③ 助成条件

新規の整備等事業を対象とし、更新は対象外
 - 2 公務災害防止研修事業
 - ④ 助成金額

一〇〇万円を上限
 - ア 安全管理セミナー

消防団員の安全管理と健康管理の重要性の認識及び理解を促進し、消防団員全体への普及を図る
 - イ S・KYT研修

消防団活動時における危険を予知するとともに、これに適切に対応できる能力を養成する
 - ウ 健康管理セミナー

消防団活動時に発生する脳血管疾患及び虚血性心疾患の公務災害防止を図るための健康管理知識を習得する
- 団員一人一人の安全確保と事故防止に、ぜひ基金が実施する事業をご利用ください。
- なお、これらの事業の詳細については当基金のホームページ (<http://www.syoubunkin.jp>) を参照してください。

- 和歌山県ホームページ <http://www.wakayama.jp/pre/120100/saigaien/index.html>
- 奈良県ホームページ http://www.pref.nara.jp/dd.aspx_menuid-25493.htm
- 三重県ホームページ <http://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/2011090165.htm>

わがまちの団長さん

180

「地域の安全安心を守るため」

豊岡市竹野消防団 仲治 義信



豊岡市は、平成二七年四月に兵庫県の北東部に位置する二市五町が合併してできた市で、竹野はその北西部に位置し、北部の海岸地域から南部の山間地域まで、変化に富んだ地形を有する自然に恵まれた町です。豊岡市竹野消防団は、竹野地域を管轄する消防団として、一本部六分団、三二名の団員で構成されています。仲治団長は、昭和五四年に竹野町消防団に入団され、平成九年から

副団長に、そして今年四月に団長に就任されました。その間、数々の災害に出動され、また訓練にも積極的に取り組まれ、地域住民を災害から守るため活動されてきました。また、平成二〇年からは地元区長の区長さんでもあり、団員のため区民のため、大変忙しい毎日を送っておられます。

そんななか、団長の唯一の趣味がソフトボールの審判。今年で審判歴三〇年。二〇〇六年の「のじぎく兵庫国体」においても審判員を勤められ、大会の運営にも協力されました。温厚誠実で責任感が強く、団員への気遣いを忘れない頼れる団長さん。そんな団長のお宅で経営されている喫茶「あすなろ」は、団員が集う「たまり場」でもあります。仲治団長二年目の年。地域の安全安心を守るため、仲治団長の下、竹野消防団は力を合わせて活動していきます。

「現在も消防団員継続中」

長田消防団第八分団 元分団長 鈴木 将弘



この度の東日本大震災で被災された皆様、謹んでお見舞い申し上げます。私たちが平成七年に阪神・淡路大震災に見舞われ、長田の町が大火で覆われました。神戸市長田消防団第八分団の管轄区域には、長田港、石油コンビナートがあり、ケミカル関係の会社や、大正筋商店街などの商業施設も多くあります。ま

た、漁業の町でもあります。私は、昭和五六年四月に入団し、平成九年には分団長になりましたが、平成一四年に私事で団員に戻りました。入団のきっかけは、先輩の村上広志氏と、現団員でもある同級生の田中敏明氏の、「何もしなくていい。年末特別警戒にだけ出てくれたらよい」という言葉でした。故三宅分団長時代の昭和六三年に副分団長を拝命しました。誰もが知っている名分団長のもとで消防団活動を行っていましたが、当時は詰所も無く、年末特別警戒の時は、「いいの家」の階段の下にストーブを置いて暖をとりました。狭いスペースで、団員も肩身の狭い思いをしていました。小型動力ポンプも無く、資器材な

ど何もない状態でした。平成七年の震災時は、花房浩治団員（現在、副分団長）の家が詰所代わりになり、人命救助や放水活動を、一週間ほど繰り返し、繰り返し行いました。今思えば、貴重な体験でした。

現在は、詰所もでき、小型動力ポンプも装備されました。私は現在も、町の防災リーダーである消防団員として、防災福祉コミュニティの指導やAEDの取扱い指導、訓練など、月に二、三回以上参加しております。昔と違って、震災後は消防団も忙しくなりました。平成三年には駒ヶ林神社、平成二二年には駒ヶ林町三丁目などの大きな火災があり、緊張が絶えません。この度の東日本大震災の時も、海

われら若手消防団員

(42)

「地域への恩返しのために」

播磨町消防団 二子北分団 尾崎 壘



私は大学に進学すると同時に消防団に入団しました。当時の幹部の方からお話があったとき、迷うことなく決めました。・と言え

ば、いかにも「消防団の使命に燃えて」「熱い思いで」決意したと感ぜられるかもしれませんが、決してそうではありません。私の父も学生の頃から消防団に入団しており、小さな頃からその姿を見て育ったので、自分もその年代になれば入団するものと思っていたからです。もちろん、消防団への憧れの気持ちもありました

が…。入団当初は学生気分があり、不規則な生活もあって、あまり役に立てなかつたと思います。就職してからも、勤務の都合で十分な活動はできていないのが現実です。これでは何のために入団したのか、

と疑問が湧いてしまいましたが、操法大会には今まで三回出場しています。なかなか優勝までは手が届いていませんが、いつか必ずと思っています。

私は、生まれてから現在まで、大学生の一時期を除いて、ずっと播磨町で生活しています。両親も祖父も地域の方々と積極的に関わっていたので、おかげで私も地域の方々にかわいがっていただききました。消防団活動は、その恩返しであると思っています。これからのこの思いを忘れることなく、与えられた責任と役割を果たしたいと考えています。

消防団今昔

82

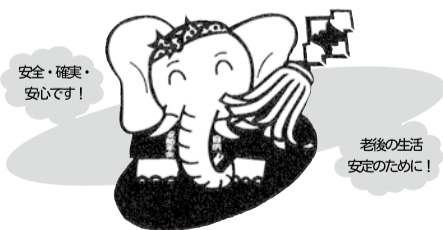
- ・操法最適ホース：コンペVシリーズ
- ・小型動力ポンプ：ラビットダイヤモンドフジシリーズ
- ・小型動力ポンプ積載車(標準型・全自動型)
- ・消防ポンプ自動車(モリタ)
- ・消防用資機材全般



有限会社 西垣消防器具製作所
 669-5213 兵庫県朝来市和田山町玉置461
 TEL:(079)672-3131
 FAX:(079)672-3132
 E-mail: fp-nishigaki@eagle.ocn.ne.jp

みんなで入ろう互助年金

消防互助年金



【消防の仲間が支える互助年金】

人生80年時代！老後の準備は怠れません
消防関係者一人ひとりの老後を充実させます

- ・会議などの際にお呼びいただければ(財)日本消防商会の職員が説明に伺います
- ・費用は無料ですし、少額ですが会議費を助成致します
- ・消防互助年金制度説明用ビデオの貸し出しをしております

お問い合わせはフリーダイヤル 0120-658-494

兵庫県が阪神・淡路大震災の教訓を生かした助け合いの制度

兵庫県住宅再建共済制度

フェニックス共済

【共済負担金】	【共済給付金】	給付額
住宅再建共済制度 年額5,000円	再建等給付金	全壊・大規模半壊・半壊で建替・再建 600万円
	補修給付金	全壊で補修 200万円
		大規模半壊で補修 100万円
		半壊で補修 50万円
住宅所有者が加入	居住確保給付金	全壊・大規模半壊・半壊・補修せず 賃貸住宅に転居した場合 10万円

(注) 1 県外で再建・購入の場合は給付額1/2
2 賃貸住宅等は、県内の再建等のみに給付し、居住安定確保給付金は給付対象となりません。

※ マンションの共用部分について、管理組合が1棟単位で加入できる制度もございますので、下記までお問い合わせください。

もうご加入いただきましたか？

皆さん、「フェニックス共済」への加入はお済みですか？この制度は兵庫県が阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、創設したものです。平成21年8月の台風第9号の豪雨災害では、制度創設以来、初給付を行い、被災加入者から住宅再建に役立ったとの喜びの声が届いています。いざというときのわが家の安全・安心のためにも、ぜひご加入ください。

NEW 家財再建共済制度 8月1日より開始

加入者	県内の住宅に居住している方(住宅を所有している方は賃貸住宅の借主など)	
対象	県内の住宅に存する家財(ただし、1戸の住宅に存する家財につき1加入)	
対象災害	あらゆる自然災害(地震、台風、豪雨、豪雪、津波、暴風、落雷等)	
被災の判定	市町が実施する住家の被害認定(防災証明書)による	
共済負担金	年額1,500円(住宅再建共済制度とあわせて加入の場合は年1,000円)	
共済給付金	被災住宅に存する家財を補修又は購入した場合に給付	
	区分	給付額
	全壊	50万円
	大規模半壊	35万円
半壊	25万円	
床上浸水	15万円	

岸部の津波警戒のため出動いたしました。平成三年に神戸市長賞、平成四年には家族への感謝状、平成五年に兵庫県消防協会長精勤賞、平成一〇年に兵庫県自治賞、平成二二年にやくも賞(長田区民防災の賞)、平成一九年には兵庫

県消防協会長勤続賞など、多くの賞をいただいています。お世話になった先輩消防団員の思いを今も引き継ぎ、長田区民のため、安全で安心な町づくりのため、消防団活動を続けていきます。私は今も現役消防団員です。

地 区 通 信

「地域防災の要」

南あわじ市消防団

南あわじ市消防団は、四方面隊五九分団で構成され、団員二、一九〇名で地域の安全・安心を守っています。

各分団では、ポンプや消防車、消火栓など器具点検のほか、例年ポンプ操法大会を実施し、消防技術の向上に努めています。また、火災予防運動時以外にも、広報パレードを行い、火災予防を徹底しています。

なでしこ分団(女性分団)では、AEDを使用した救命講習や火災予防や住宅用火災警報機の設置の普及啓発など広報活動に活躍しています。

近い将来の発生が確実視されている南海地震では、地震の揺れに加え、津波による甚大な被害が予想されています。特に、福良地区では、最大約五・三mを超える津波により、既存の防波堤では被害を防げない状況です。三月十一日に発生した東日本大震災では、未曾有の被害が発生し、今後は消防団への地域防災に対する役割・期待が益々大きくなっていきます。

自治会や自主防災組織、消防本部・警察と連携し、みんなで津波による死者ゼロを目指す。特にひとりでは避難に支障をきたす災害時要援護者については、民生委員、自治会・長など連携しな



がら、支援計画の具体化に協力していきます。

最後になりましたが、兵庫県では、南海地震により県内最大の被害が予想される福良地区に、水門や樋門などの扉を確実に閉鎖し、津波による被害を低減するための施設として、『福良港津波防災ステーション』を平成二十二年度に整備しました。

観潮船乗り場に隣接して建設され、二階には防災学習室があり、平常時は住民や観光客をはじめとする一般来館者への津波防災の啓発、地域への研修、小学校の課外授業など、地域の防災学習拠点としての役割も果たしています。

外壁は、コルテン鋼という特殊な鋼材が使われ、今は、一面赤い錆びで覆われていますが、時間の経過とともに細かい焦げ茶色保護錆びに覆われ、赤錆による腐食を防いでいます。南あわじ市にお越しいただいた際は、日本一のうず潮を鑑賞し、福良港津波防災ステーションに是非お立ち寄りください。

故郷を歩く

神鍋高原へいらいしゅん

豊岡市日高消防団 団長 長岡 健美

神鍋山をはじめとした火山群と溶岩の造形美が見られる、豊岡市日高町にある神鍋高原。昨年一〇月に世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの見どころのひとつに選ばれています。神鍋山・神鍋火山群の活動は約七〇万年前に始まり、何度か噴火を繰り返した後、約一万年前の噴火が最後であると推定されており、神鍋山から流れ出した溶岩流は一五kmにもおよびます。

神鍋山は、約二万年前の噴火により誕生した休火山で、標高は四六九m、周囲約七五〇m、深さ約四〇mのすり鉢状の火口が見られ、秋には火口付近二面にスキの穂が黄金色に輝き、スキの名所として知られています。道の駅「神鍋高原」から火口まで徒歩三〇分、火口一周は徒歩で一五分です。また、周辺にはたくさん

の自然が残されており、三川山、蘇武岳などへの登山や、神鍋溶岩流跡にできた稲葉川では大小様々な滝や淵を見ることが出来ます。稲葉川にかかる滝は、神鍋溪谷公園にある一ツ滝、二ツ滝をはじめ、俵滝、八反の滝、二段滝、豊滝、十戸滝など多くの見どころがあり、十戸ではニジマス

の川釣りが楽しめます。また、ホテルやペンション、観光協会などがジオパークにちなんだ料理や菓子の名物作りに力を入れており、六月二十九日に開催された「神鍋ジオグルメ試食会」で計一八品が発表されました。神鍋溶岩流カレー「溶岩団子」、溶岩おはぎや、炭パウダーを使ったワッフルなどほとんどが未発売



溶岩流カレー



神鍋ジオグルメ試食会



神鍋のススキ



神鍋山噴火口



けます。

の新作。「神鍋火山弾ドーナツ」は、外見といい、割ったときの中の小さな穴ほこりいい、火山弾にそっくり。神鍋観光協会が披露した地元産のキャベツを使った「神鍋キャベツ天丼」も好評です。道の駅「神鍋高原」、ホテルなどでメニューの一つとして提供されています。

この一〇月からは、JR江原駅から神鍋高原へのアクセスとなる全但バスが江原駅と神鍋高原間のバス料金を二百円に大幅値下げをする社会実験を実施するの

冬の神鍋高原はスキーでおなじみですが、スキーシーズンの安全を確保するため、豊岡市日高消防団では冬山遭難救助訓練に参加しています。冬山での遭難者の救助は経験者でないと難しいため、団員の知識、技術の向上に努めることを目的としています。この訓練は気象条件の厳しい冬山で行っており、ゾンデ棒(雪崩に埋没した人を探すための棒)による雪崩遭難者の捜索は、通常



神鍋高原

の火災や水防訓練とは異なる緊張感があります。このような訓練や経験を積み、神鍋高原にお越しいただく皆様に安心して滞在いただくよう、消防団も微力ながら協力したいと思っております。

消 防 服
消防設備点検・消火栓器具

キンバイホース 兵庫県特約店

株式会社 三 浦 消 防

姫路市龍野町1丁目1の2

TEL 079-292-0447 FAX 079-298-8663

URL <http://www.msyoubou.com/index.html>

E-mail msyoubou0447@s9.dion.ne.jp

「こんにちは！
ひょうごの消防団です」

<http://www.hyogoshoubou.jp/>



平成二二年救急・救助の概要

消防庁

消防庁において、全国の救急業務及び救助業務の実施状況等の調査が毎年実施されており、その調査結果が「平成二二年救急・救助の概要」として取りまとめられ、公表されました。

救急自動車の現場到着までの時間は全国平均で八・一分(前年七・九分)、病院収容までの時間は全国平均で三七・四分(前年三六・一分)となっております。過去最長となっております。

○救急体制

「平成二二年救急・救助の概要」により、救急自動車の救助出動件数は五、四六二、八四八件であり、平成二二年中と比較すると、三四〇、六二二件(六・六%)と大幅に増加しています。また、救急搬送人員は四、九七八、七〇一人で、二九五、七一〇人(六・三%)と増加しています。どちらも過去最多となっております(第一図参照)。

救急自動車は五・八秒(前年六・二秒)に一回の割合で出動しており、国民の二六(前年二七人)に一人が搬送されたことになっていきます。

救急救命士が行う「器具による気道確保」や、「除細動」、「静脈路確保」、「薬剤投与」等の救急救命処置内容や件数も一〇五、六五四件(対前年比八・

七%増加)にのぼり、年々増加しています(第三図参照)

○傷病者の状況

平成二二年中の救急搬送入院を傷病程度別割合で見ると、「軽症」が五〇・四%(前年五〇・七%)となっており、平成一七年をピークに減少傾向にあります。一方中等症傷病者(一年以上三週間未満の入院が必要者)の割合が三八・四%(前年三七・八%)と前年に比べ〇・六%増加しており、年々割合が増加しています。

○応急手当

消防機関の実施する応急手当普及講習の修了者数は、平成二二年中は約一四九万人が修了しました。これは国民の八六人に一人が受講したこととなりま

出ていると推測されます(第四図参照)。

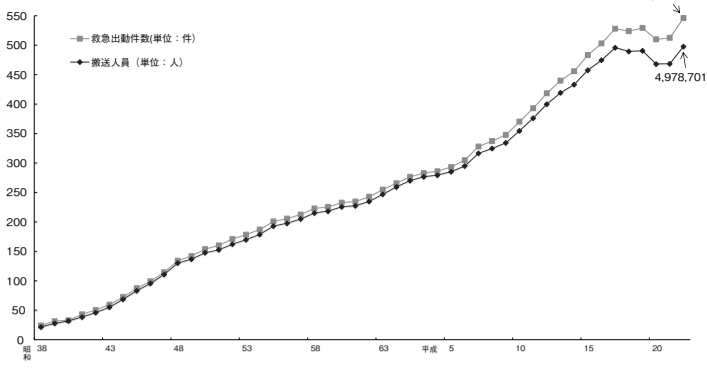
○消防防災ヘリコプター

平成二三年四月現在、全国四五都道府県に七〇機が配備されています。消防防災ヘリコプターの救急出動件数は年々増加しており、平成二二年中は過去最大の三、九四二件(前年三、七二〇件)となっております。消防防災ヘリコプターの火災や救助も含めた出動件数は七、二一八件で救急による出動の占める割合の約半数(五四・六%)を占め、救急業務に欠かせない存在となっております。

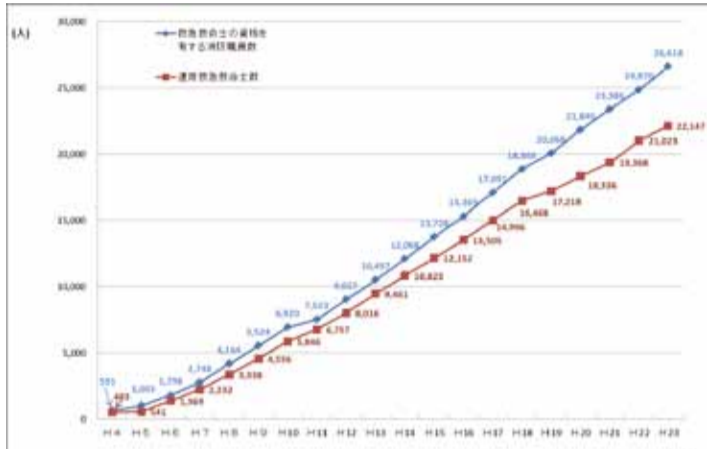
○救助体制

救助隊数について平成二三年四月現在、一、五一八隊で前年度から三〇隊増加しています。また、救助隊員数についても、二五、六〇四人で前年比二九一人増となっております、体制の充実が図られています。

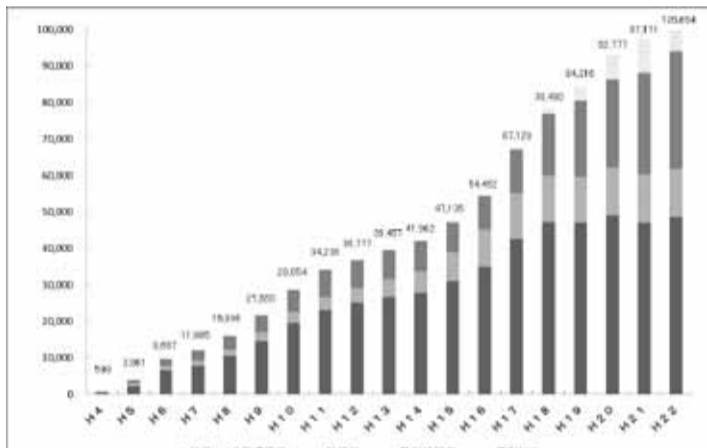
第1図 救急出動件数及び救急搬送人員の推移



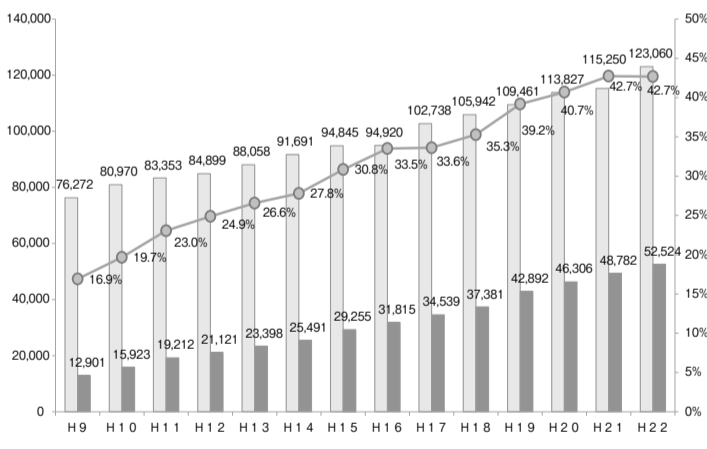
第2図 救急救命士数の推移



第3図 救急救命士が行う処置件数の推移



第4図 応急手当の実施数及び実施率の推移



第5図 救助活動の状況

区分	救助出動件数	救助活動件数	救助人員
平成22年中	84,264件	55,031件	58,682人
平成21年中	81,567件	53,114件	54,991人
対前年増減数	2,697件	1,917件	3,691人
対前年増減率 (%)	3.3%	3.6%	6.7%

○救助の状況
平成二二年の救助出動件数(救助隊が出動した件数)は、八四、二六四件(前年八一、五六七件)、救助活動件数(救助隊が実際に活動した件数)は、五五、〇三二件(五三、一一四件)と増加しています(第五図参照)。

出動原因については交通事故によるものが二九、〇一五件で全体の三四・四%を占めており、昭和五五年以降、第一位の出動原因となっております。

救助活動件数については、建物等による事故が一九、二二二件で全体の三五・〇%を占めており、平成二〇年以降第一位活動種別となっております(第六図参照)。

第6図 事故種別救助活動状況

区分	事故種別										合計
	火災	交通事故	水難事故	自然災害	機械による事故	建物等による事故	酸欠事故	ガス及び	破裂事故	その他	
救助出動	5,530	29,015	3,879	392	1,777	24,940	1,011	16	17,704	84,264	
	6.6%	34.4%	4.6%	0.5%	2.1%	29.6%	1.2%	0.0%	21.0%	100%	
救助活動	5,530	16,585	2,661	279	999	19,232	650	10	9,085	55,031	
	10.1%	30.1%	4.8%	0.5%	1.8%	35.0%	1.2%	0.0%	16.5%	100%	
救助人員	2,051	23,349	3,156	502	1,263	18,220	632	11	9,498	58,682	
	3.5%	39.8%	5.4%	0.9%	2.1%	31.0%	1.1%	0.0%	16.2%	100%	

編集後記

台風第一二号による豪雨災害で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

加古川市において住民の避難誘導に向かった消防士が増水した川に流れられ殉職されるなど、兵庫県下においても甚大な被害が発生しました。

これから本格的な台風シーズンが到来します。消防団員の皆さまも出動する機会が増えることと存じますが、火災のみならず、水防活動時についても、事故等にはくれぐれもご注意ください。

また、お疲れのではありませんよう、体調管理には十分お気をつけください。



【お詫びと訂正】
「兵庫消防」平成二三年八月一五日発行第六三三号の『消防団今昔八一』において、職名を誤って掲載しておりました。
お詫び申し上げますとともに、次のとおり修正いたします。

正 選任副団長
(誤) 専任副団長

【事務局からのお知らせ】
「兵庫消防」一〇月号は休刊させていただきます